

問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

一九二〇年代、白さはモダンの①係数だった。暮らしを白く彩ることは、すぐれてモダンライフの表徴だった。つまり、数多くある色彩のなかから、②ニイツマみずから選びだしたのが「白色」だった。まさに、この選択意志こそ、(1)白さをモダンの係数とする表象大系からくるものであるということだ。だからこそ、電気冷蔵庫の白い表面は、文化的階級闘争の現場となったわけだった。そして、当然ながら、それに敗れるひとびとも出た。

およそ近代というのは、目標を設定することを③要諦とする。そして、(2)設定した目標を「規範」とすることを実践的手立てとしてつづ。たまたまそこに到達できれば幸福だ。こうした目標ではない。規範とされるというのは、目指されうるし、また目指されねばならない目標とされるということだ。こうして一旦「規範」とされると、それに向って到達できるよう「訓育」される。あとは規範からの偏差というものが、「制裁」の対象となり、「矯正」されるべきなものとなる。こうして一旦、④矯正されるべきなものか判定されると、ふたたび訓育しなおされ、もういちど規範を目指すように駆りたてられる。そして、この行程がはてしなく円環構造となつて、くりかえされてゆくのである。これが近代のシステムだ。

なにも遠い世界の話ではない。わたしたち自身の話である。ミシェル・フーコー『監獄の誕生』(一九七五年)にならえばこうだ。近代的施設である「学校」や「工場」がその典型である。たとえば、学生は「単位」をとるように「規範」が設定されている。(3) たまたま単位がとれば幸福ですね。そうした目標ではない。それに向けて必死に勉強させられる。「訓育」されるのである。そして、そこから(4)逸脱すると「制裁」が課せられる。「落第」である。しかし、ことはこれでは終わらない。「再履修」と称して、ふたたび訓育がほどこされ、もういちど単位を目指すよう尻を叩かれる。規範からの逸脱が矯正されるのだ。そして、その行程が延々とくりかえされてゆくのである。これが近代の哲理だ。学校ばかりではない。わたしたちの暮らしのなかで、近代の哲理とはまったく違う原理でできているできごとを探すのは、じつは大変難しい。

効率化とか省力化とか、あるいはまた、無駄の排除とか障害因子の排除とか、そうしたものは、いずれもつともらしく聞こえる言葉たちである。しかし、それらは、近代社会が目標なるものを設定した瞬間から誕生し、知らぬ間に規範であるとされた言葉たちである。(5)つまり、そもそもこの世には、最初から無駄であるものや、はなから障害因子などというものは存在しないのだ。なんであれ、ある目標を立てた瞬間に、それが無駄にもなり、障害因子にもなってしまうだけのことだ。そうであるならば、真に重要なのは、なにが無駄であり、なにが障害因子なのかということ論することではない。そうではなくて、なにを目標としているのか、どのような目標を立てたのかをこそ論ずるべきなのである。なぜなら、目標の立て方いかんによっては、ある時点で無駄とされているものも、無駄ではなくなるかも知れないからだ。問われねばならないのは、なにが無駄であるかということではなく、それを指して無駄とした見立て方、つまり目標の立て方そのものの方である。要するに、近代がじつのところなにを目標としてきたのかということである。

しかも、近代はすでに、そうした問が立てられる以前から、目標を追求する手立ても構築してしまっている。規範と訓育と制裁の社会システムだ。

冷蔵庫の白い⑤神話も、近代のシステムでできている。まずは、「白さ」が規範として設定される。モダンライフを手に入れるために、到達しなければならぬ目標である。無論、科学的根拠があるとされる。しかし、⑥タイテイは専門的な話ばかりで、⑦シロウトであるユーザーにはじつのところよく分からない。次に、この規範に向けて「訓育」される。広告やセールスマンの謳い文句で、「白さはモダン」というメッセージ内容を教えられ、「白さ」が⑧審美的基準であることを理解するよう求められるのだ。そして、最後に「制裁」が課せられる。「敗北感」である。白さをめぐる卓越化の戦いに勝てばよし、負ければ敗北感が待っている。敗北感とは、白いモダンライフという規範を手にしそなたときくべきだされる制裁のことである。しかし、もちろん(6)ここで終わらせてはくれない。(7)敗者が解放されることはない。ふたたび、⑨補完物あるいは⑩廉価版と称して、あらたな製品が目の前にさしだされる。(8)敗者復活戦だ。それを新たに使いこなすように、ふたたび「訓育」「矯正」され、もういちど「白いモダン」という「規範」に到達するよう駆りたてられる。そして、こうした行程がどこまでも果てしなくつづいてゆくのである。学生の場合であれば、この行程がくりかえされるのは、たかだか卒業するまでのことではない。しかし、一旦社会に出れば、この行程は死ぬまでつづいてゆくのである。モダンライフの⑩シトとしての「白さ」をめぐる表象世界が、近代の哲理に深くAさしているというのは、この構図をいうのである。

なるほど、わたしたちの暮らしは、「白い神話」を筆頭に、こうした近代の表象システムにBになつていく。そこから脱出する⑫方途を見つけるのはなかなか困難だ。しかし、少なくとも、自分たちがそうした表象システムに⑬カラめとられている、ということだけは知っておきたい。それが、ある限定された価値観のもと仕掛けられてきた神話にすぎないことだけは、見きわめたい。神話を神話として見抜きたいのだ。なぜなら、それが神話であることを知らずに神話のなかで生かされると、神話であることを知った上で、それでもなお、その神話のなかで生きてゆくことを選択するのでは、雲Cの差があるからだ。仮に、神話が「嘘」でできていたとすれば、神話の正体を知っていなければ、嘘を真実と思いこんだまま生きてゆくことになるかも知れない。なるほど、嘘の外部へ、つまり近代の外部へ脱出するのは困難である。しかし、仮にそうだとしても、その正体が嘘と知った上であれば、嘘を嘘として、うまくあしらうこともできるし、却って、それをD手にとることもできるかも知れない。

(原 克『白物家電の神話』による。なお、本文に一部変更・省略がある。)

問1 傍線部①③④⑤⑧⑨⑩⑫の本文中での意味を次から選び、記号で答えなさい。

① 係数

ア 関数 イ 序数 ウ 虚数 エ 変数

③ 要諦

ア 諦める必要があること イ 気が引き締まること ウ 肝心要のところ エ 強く要求されること

④ 矯正

ア 正しい模範をはっきり示すこと イ 模範を示して教え諭すこと

ウ 強制的に欠点を改めさせること エ 欠点を直し正しい状態にすること

⑤ 神話

ア いつのまにか人々の間で伝えられ畏敬の対象になっていることがら

イ 根拠もないのに絶対的なものとして人々に信じ込まれてきたことがら

ウ 神が決めたことだと絶対化して人々の心を支配してきたことがら

エ 神の存在を証明するために大昔から語り継がれてきたことがら

⑧ 審美的基準

ア 美しいものを識別するための基準 イ 美しいものを想像するための基準

ウ 美しさをさらに磨くための基準 エ 美しさがすべてであるという基準

⑨ 補完物

ア 完全ではなく不十分なところを持つているもの イ 完全なものの代わりになり得る不完全なもの

ウ 不十分なところを補って完全にするためのもの エ 完全なものを補うために用意されているもの

⑩ 廉価

ア 定価 イ 等価 ウ 安価 エ 時価

⑫ 方途

ア 手段 イ 逃げ道 ウ 目的 エ 対策

問2 傍線部②⑥⑦⑩⑫のカタカナ部分を漢字で書きなさい。

問3 波線部(1)の説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 白色家電をどれだけ持っているかで、モダンライフがどれだけ実現できているか判断できる。

イ 電機製品の白さは、新しさを示す指標であり、購入者が選んだ白色は新婚生活を象徴している。

ウ 白さとモダンライフには、同程度の価値があるので、白さに関係するものはすべてモダンだと判断できる。

エ モダンライフの象徴は白色なので、その実現を可能にするのは、白色に関係のある家電製品であるといえる。

問4 波線部(2)について、「実践の手立て」を言い換えている表現を、本文から一五字以内で抜き出して答えなさい。

問5 波線部(3)で、必要とされる「目標」とはどのようなものか。その説明として、適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 達成しなければだちに罰せられる強制的な目標 イ やらないと絶対に損をするというメッセージがこめられた目標

ウ 誰にでもやり遂げられることがあらかじめ示されている目標 エ やりがいと達成感が約束された理にかなった目標

オ 設定するとそれに拘束されるように巧妙に仕組まれた目標

問6 波線部(4)の「逸脱」と、本文の中でもっとも近い意味で用いられている、漢字二字の表現を抜き出して答えなさい。

問7 波線部(5)の理由としてもっとも適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 無駄や障害因子を見つけるのが、近代の本来の目標ではないから。

イ 近代の本来の目標は、この世の存在すべてに価値を認めることだから。

ウ 無駄や障害因子は、目標の立て方によって変わる相対的なものだから。

エ 無駄や障害因子は、近代の絶対的な価値観によって作られたものだから。

問8 波線部(6)の指示する内容を本文中から三字で抜き出して答えなさい。

問9 波線部(7)「敗者が解放されることはない」のはなぜか。その説明として適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 次々に新製品が作られ、それが欲しいという欲求を絶えず刺激され続けるから。

イ 新製品を手に入れることができなかつた挫折感や罪の意識に、いつまでもさいなまれ続けるから。

ウ 新製品が手に入らなくても、その型落ち商品を手に入れる回路に誘い込まれるから。

エ 新製品を手に入れられなかつた失敗から多くを学ぶように論されるから。

問10 波線部(8)「敗者復活戦」の説明として適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 新製品を購入しなかつた人が、さまざまな手段によって、同じ商品を購入するように誘導されること。

イ 新製品を購入できなかった人が、同じ製品を購入するために自ら努力し続けること。

ウ 新製品を購入できなかった人の劣等感を利用して、まったく別の商品売りつけようとする事。

エ 製品を購入できなかった人が、再度同じ種類の商品を別の方法で買うように誘導されること。

問11 文中の空欄A・C・Dに入るのに適切な漢字一字を次のから選び、記号で答えよ。

ア 梅 イ 弓 ウ 心 エ 名 オ 泥 カ 嶺

キ 得 ク 相 ケ 根 コ 母 サ 目 シ 逆

問12 文中の空欄Bに入る適切な語を選び、記号で答えよ。

ア なれっこ イ しゃかりき ウ および腰 エ がんじがらめ